

平成二十九年三月二十一日（火）飯山一郎さまの情報

古代の東アジア

## 天皇系図の分析について 藤井輝久著書を紹介、

【『日本書紀』と『古事記』は百済や新羅の歴史を書いた。】

約2700年前、神倭伊波礼畏古尊が渡来し、今までの祝詞【丹波の国の高天原は真名井原丹庭に生り坐せる、唯一神明三位一体伊勢生成の神を「天照皇大御神」と、拝み奉りて】と唱えて来た物を、【筑紫の国の高天原は日向の小戸の阿波岐原高千穂の峰に生り坐せる、「天之日子穗穗出見尊・天津身光日之大御神」を拝み奉りて】と唱え始めてしまったのです。

此の事が後に伊勢の神が與謝宮内を離れられて、尾張の国の日神山に移動されたので御座います。

日本で唯一の靈仙三蔵（平安時代後期）は、天武天皇の古事記編纂により太古の歴史が消されてしまった為、これを伝え遺さねばと発願され、唐の長安に仏教

教法のため、804年46歳？・に渡唐した後、日本に帰国できなかつたことが明らかにされたものだと存じます。

滋賀県米原の靈山の頂上にあつた興福寺に、麓に住む息長氏丹生真人族の祈願により長子として生まれた靈仙は、幼くして仏門に入り、金勝寺別院靈仙寺（靈山七ヶ寺の一つ、松尾寺、安養寺他）から奈良法相宗・興福寺に入山され得度して、804年最澄や空海と共に入唐したが、最澄と空海は相次いで帰国されましたが、靈仙は卓越した梵語（サンスクリット語）を習得されていて、当時150年以上前に、唐の朝廷でインド半島の先の島より、献上された古い梵夾が発見され、それを翻訳する8名の中の一人に選ばれ、その後は靈仙が中心となり完成されました。

仏教哲学の基として、人類の祖が何処なのかを明らかにしなければ何も始まらず「靈仙」はこの翻訳事業の中で、インド教の基が日本から流れている事を悟られ、「生命生産出しの神」と、そこより「御降臨・御降誕した」人祖「初代」伊邪那岐尊・伊邪那身命の我が国の重大さを異国の地で知つたので御座居ました。

しかしもう時すでに遅く、唐の朝廷の一員となり、内部を全て知った「**靈**<sup>3</sup>仙」は逸る想いを手紙にして日本の現在の天津市に在ります石山寺に『大乘本生心地観経』を送ったので御座います。その後、憲宗皇帝が暗殺され、仏教徒弾圧が日に日にひどくなり、靈仙は長安から五台山へ逃げながら修行されておられました。

こうした中、長安の青龍寺に仏教の深奥を一身に受け継いだ「**惠果阿闍梨**」がおられ、再入唐される「**空海**」を待っておられました。「**惠果**」は「**靈仙山蔵**」から人祖が三十八名の御子をお生産になり、この地球生命界を護り、治めて行く大法師として、神が誘（伊邪那）われた方である事を「**太元帥明王**」として知ったので御座いました。

しかし、そのような事は唐の国家機密であり、大國の唐こそが祖であるとする朝廷に従わねば命はなく、「**惠果**」にとつて遣る方無い想いをされていきました。そんな時、再度入唐した「**空海**」との出会いでその思いを一掃させたので御座いました。

ご自身の寿命を悟られていた「**惠果**」は「**空海**」に全てを託し、日本に持ち帰らせたので御座いました。

「**空海**」は仏教の神髓を学ぶためならインドまでも行く心募りでしたが、一年半で帰国された理由がここにありました。

「**空海**」は日本に帰り和歌山県高野山に**真言密教**として、日本の**伊勢生成の神**が基であると**仏教**で伝えたのでございます。

「**靈仙山蔵**」は内供奉僧という皇帝の側近くにあつて相談役を勤めた高僧であつたため、再三の帰国願いも許されず、827年、五台山の南、靈境村靈境寺にて68歳の生涯を閉じられました。

## 神国日本

—ピラミット発祥地は日本だった!—

という著書の情報を聞いて

エジプトのピラミットは約4000年前に造られたと歴史がありますが、日本には約720万年前に、生命界地球に人類が降臨降誕した元の国である。

との歴史を御啓示いただいております。日本から世界に伊勢生成の神が、仏教と基督に伝えられたので間違いないと存じます。

5

太古の昔、人々は山を背に神まつりをして来た民族で、日本列島の真中に、頭を雲の上に出し、四方の山を見下ろしている標高3776<sup>足</sup>の富士山が置かれ、山岳信仰の神の国で御座います。

現在、四国の徳島県美馬郡穴吹町に白人神社があります。この神社のすぐそばの小高い山に、五社三門（磐境神明神社）が、石を積み重ねて枠が造られ、中に五つのお社が（中心の祠は大きく、両脇に小さい祠が二つずつあります）お祀りされて遺されております。

畏

平成二十九年三月二十三日（木）

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市